

令和元年6月20日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02032

研究課題名(和文) サービス産業とメディア文化における言語相互行為のジェンダー化に関する実証研究

研究課題名(英文) A Study on the Interaction Between Service Industry and Media Language with Gender

研究代表者

FURUKAWA Gavin (Furukawa, Gavin)

上智大学・外国語学部・助教

研究者番号：10773351

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではジェンダー・言語・メディア・サービス労働の関係性に焦点を当て、「女装」をめぐる若者たちの実践を追求し、大学の女装コンテスト、女装の多様なメディア表象、女装カフェ空間という三つの領域において研究を行った。女装実践に関わる若者たちにとって、女装は多様な意味・機能・帰結を齎した。女装実践は、規範的ジェンダー・セクシュアリティ表象を批判的に再構築する「自由」の表現である一方、非伝統的な表現への望まない好奇の視線を招き、性表象を商品化し消費を促すスペクタクルになるという両義的な側面があった。本研究は女装の実践がジェンダー・バイナリーな対立に還元されない両価的な意味を指標することを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

言語実践の分析を通じて、現代日本社会のジェンダー・セクシュアリティにおけるダイバーシティの複雑性を明確化することで、ジェンダー・セクシュアリティ研究の理論的深化に貢献した。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the relationship between gender, language, media and service labor utilizing the practices of young people doing josou or cross-dressing as the main focus. Our data sources included josou contests at Japanese universities, various media representations of those doing josou, and josou in service-related industries such as josou cafes where customers are waited on by young men in dresses. For young people participating in the practice of josou, we found that it had various meanings, functions, and consequences. While josou is a free expression of gender that critically and creatively reconstructs the normative gender and sexuality representations, it invites looks of unwanted curiosity and desire while commercializing and glorifying the consumption of gender and sexuality. This study revealed that practice of josou has multiple meanings in Japanese society and cannot be reduced to simple categorization through masculinity, femininity and sexual orientation.

研究分野：socioinguistics

キーワード：ジェンダー メディア 言語 セクシュアリティ 女装 若者 アイデンティティ LGBT

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

【ジェンダー・セクシュアリティとメディア研究】日本のジェンダー研究において、メディアは1980年代初頭から注目されてきた重要なトピックであり、多くの研究が、マスメディアにおける固定的な性役割や表象を批判してきた。近年では、大きなメディア環境やコミュニケーション技術の変化の中で、複雑化するジェンダーのメッセージを分析した研究もなされるようになった。しかし、メディアの受け手の側も含めた言語の視点からの分析は充分ではない。欧米発信の研究では、メディアにおける言語使用の表象と、そういった表象を言語使用者がマイクロなやりとりの中で再生産する実践の双方が、社会言語学や言語人類学の分野で注視され、日本の文脈においても同様の動向が見られる。一方、日本における情動労働やジェンダー論をめぐる欧米発信のメディア研究も多数存在し、TVドラマやアニメ等のキャラクターや物語構造と、視聴者やファンの需要やライフスタイルとの相関関係は広く分析されている。しかし昨今のメディア研究には、相互行為の言語実践を積極的に分析の資料として組み込んだものは少ない。また、メディア化された言語と社会制度としてのサービス労働における相互行為を同時に考察する研究も十分ではない。

【ジェンダー・セクシュアリティと言語研究】日本語の「女性語」と「男性語」の違いは、国内外の研究において広く注目を集め、人称代名詞・終助詞・語彙などにおけるジェンダー差の言語的な特徴が明らかにされてきた。しかし近年多くの研究は、実際の言語実践は地域、階層、年齢、セクシュアリティ、文脈によって多様であることを明らかにしてきた。Inoue(2006)は「女性は丁寧に話す」のような本質主義的前提からのパラダイム変換を主張する。重要なのは、各文脈における多様な言語実践が社会的実践や社会制度、ジェンダー・アイデンティティとどのように関わっているかをつぶさに明らかにしていくことである。例えば、Eckert(2000)は、米国の女子高校生がグループによって多様な言語実践を展開し、言語実践がファッションや余暇活動などの社会实践と結びついていることを明らかにした。しかし、国内の研究においては、言語の多様性と変化を明確に浮き彫りにする若年層のジェンダー言語の研究は充分に行われていない。また、ジェンダー化された言語行為が顕著に影響するサービス産業という制度的プロセスに直接的に焦点を当てた実証研究はまだ充分に行われていない。

【制度的な場面における相互行為のジェンダー・セクシュアリティ研究】国内外において、制度的な場面としての医療や介護、社会化に関しては、子育てにおける相互行為等を中心に研究されている。これらはGoffman (1967)の相互行為に関する理論に基づき、「やりとり」というマイクロな場面と社会制度というマクロなシステムの接点において研究されてきた。これらの制度的場面における相互行為において、ジェンダーは大きな影響を与えており(江原 2001 等)、Goffman の理論を発展させた研究に多数の分析の例を見ることができる。一方、ジェンダー化された言語実践を、現在の日本のようなポスト産業的社会において看過できないサービス産業という社会制度との関連で直接研究したものは少ない。

2. 研究の目的

以上の背景をふまえ、本研究ではジェンダー/ 言語/ メディア/ 労働の具体的な交差点として異性装、特に女装に着目する。当初は、メイドカフェで労働する人々に関するデータを収集する予定であったが、本研究に必要な録音作業やその他のデータ収集作業に関して調査が困難になることが判明した。そのため本研究の焦点であるジェンダー/ 言語/ メディア/ 労働の関係性をより明瞭に読み解くことを可能にする事例として、女装の実践を中心的に追求することとし、

大学における女装コンテスト、女装の多様なメディア表象、女装カフェ空間という三つの領域において研究を行った。

3. 研究の方法

本研究研究では、大学の女装コンテスト、女装カフェ、女装サロン（女装をするための化粧サービスと衣装を提供するサロン）、女装に関わるメディアの調査を行った。社会言語学者、言語人類学者、社会学者が協働し、エスノグラフィ、社会言語学的インタビュー、ソーシャルメディア・ディスコース分析など、学際的に横断した方法を援用した。具体的には、大学の女装コンテストのイベントの打ち合わせ、イベントの直前の化粧セッション、女装コンテストイベント、女装カフェ（男の娘カフェ）でのパフォーマンスや言語実践、女装サロンでの女装のプロセスなどを観察した。また、様々な女装の実践者および関係者（大学の女装コンテスト参加者、企画者、メイキャップ担当者、女装サロンオーナー、女装カフェ従事者、高校の女装コンテストを手伝う母親たちなど）にインタビューを行った。さらに、イベントや店のツイッター分析、女装に関するTVのパラエティ番組の分析なども行った。

4. 研究成果

当初、本プロジェクトはメイドカフェで労働する人々に関するデータを収集する予定であった。メイドカフェはジェンダーをめぐるメディア表象に深く関連しており、ジェンダー化されるサービス労働を研究する上で重要な文脈であり、メイドたち本人を対象とした調査では貴重な情報が得られるであろうと期待された。しかし問い合わせたメイドカフェのほぼ全てにおいて、本研究に必要な録音作業やその他のデータ収集作業に関する厳格な規則が存在しており、データ収集は極めて困難になることが判明した。また、現時点においてメイドカフェ文化はある程度安定したビジネスモデルを確立しており、そのような規則を例外的に緩和させる意図も見られなかった。このような経緯で、本研究はその主眼をメイドカフェから改め、新たに「女装」へ変更するに至った。本研究の焦点であるジェンダー/言語/メディア/労働の関係性をより明瞭に読み解くことを可能にする事例として、女装の実践を中心的に追求することとし、三つの領域において研究を進めた。

第一の研究領域は、大学における女装コンテストの観察、および参加者、企画者、メイキャップのスタッフのインタビューと観察調査である。この調査からは、女装をめぐる意味付けが、トランスジェンダー、フェミニズム、ミソジニー、パフォーマンス、アイデンティティを巡り、複雑に構築されていることが明らかになった。その多様な意味付けは、時に対立し合っており、変化しつつある日本のジェンダーとセクシュアリティの言説を読み解く鍵となっていた。

第二の研究領域は、女装の多様なメディア表象である。テレビ番組をはじめとするメディアコンテンツの言語分析を通して、こうしたメディアは一方では、表面上は女装実践者を平等に取り込んでいるように見えながらも、他方では、女装実践者を物象化し、女装実践者へのネガティブなイメージを助長していることを明らかにした。メディアにおける女装は、結果として、性表象を商品化し消費を促すスペクタクルとして機能しており、既存のジェンダー・セクシュアリティ規範を強化するものになっていた。

第三の研究領域はコミュニケーションのジェンダー化とサービス労働の関係である。事例として「女装カフェ」に着目し、フィールドワークを中心に調査を行った。労働者へのインタビュ

ーを通して、女装カフェという空間とそこでの美的・経済的関係性が個々人の政治的関心やアイデンティティ構築に及ぼす影響を考察した。調査協力者にとって、女装カフェの空間は、両価的な意味を持っていた。女装カフェの空間は、非伝統的なジェンダー・セクシュアリティ表現を可能にし、規範の変容の契機を提供する一方で、望まない好奇の視線を招き、「ふつうであること」を談話的に構築することを拒む場でもあることが明らかになった。

女装実践は、規範的ジェンダー・セクシュアリティ表象を批判的・創造的に再構築する「自由」の表現である一方、性表象のスペクタクルに繋がらうという両義的な側面があることが明らかになった。本研究は女装の実践が男性性・女性性や性的指向などにおけるバイナリーな対立に還元されえない両価的な意味を指標することを明らかにした。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 1 件）

1. Miyazaki, Ayumi (2018). 'Gender and Sexuality in Japanese Education: From Gender Disparity to Intersectional Gender/Sexualities.' In *“Japanese Education in a Global Age: Sociological Reflections and Future Directions,”* eds. Akiyoshi Yonezawa, Yuto Kitamura, Beverley Yamamoto and Tomoko Tokunaga (peer-reviewed). Pp.77-95. New York: Springer.

〔学会発表〕（計 11 件）

1. Furukawa, Gavin, and Ayumi Miyazaki. The Space of the Visible-Otherwise: Josou Cafés, Akihabara, Los Angeles. Association for Asian Studies 2019 Annual Conference; Dever. CO; March 23, 2019.
2. Nozawa, Shunsuke. Commentary on the Panel “Decentering Affective Labor: Gender and Labor in Japan’s Sex, Service, and Cultural Industries.” Association for Asian Studies 2019 Annual Conference; Dever. CO; March 23, 2019.
3. Furukawa, Gavin. Is There a Certain Feel You Want?: Ambiguities and Expertise in Constructing Japanese Gender. American Association of Applied Linguistics 2019 Conference; Atlanta, GA; March 12, 2019.
4. Miyazaki, Ayumi. Gender-Crossing Peer Socialization of Japanese Youth: Linguistic Negotiations to Seek Alternative Gendered Positioning in Classrooms and Transgender Contests. 2019 American Association of Applied Linguistics 2019 Conference; Atlanta, GA; March 12, 2019.
5. Nozawa, Shunsuke. Real Nobodies: Characterizing Ordinary People. 117th AAA Annual Meeting, San Jose. 14-18 November 2018.
6. Furukawa, Gavin. Crossing Boundaries of Normativities Through Josou: Mass Mediated Gender. 2018 American Anthropological Association Annual Meeting; San Jose, CA; November 15, 2018.
7. Miyazaki, Ayumi. Crossing Boundaries of Normativities Through Josou: In Real Lives of Josou Practitioners. 2018 American Anthropological Association Annual Meeting; San Jose, CA; November 15, 2018.

8. Nozawa, Shunsuke. Commentary on the Panel “Recalibrating Normativities in Contemporary Japan: Gender, Race, and Communication.” 2018 American Anthropological Association Annual Meeting; San Jose, CA; November 15, 2018.
9. Yamashita, Rika. ‘Indexing Geekiness and Performing Greetings on Tweets: The Emerging Ungrammatical Use of a Sentence-final Form’. Sociolinguistics Symposium 22, June 27-30 2018, University of Auckland, New Zealand.
10. Miyazaki, Ayumi, Shunsuke Nozawa and Gavin Furukawa. Refashioning Gendered Language and Body Among Japanese Youth at University Drag (*Josou*) Contests, 2018 Japanese Society of Cultural Anthropology Annual Meeting; Hirosaki University; June 3, 2018.
11. Furukawa, Gavin. “What Did You Think About Life As a Woman?”: New Notions of Solidarity in Japanese Women’s Discourse. Sociolinguistics Symposium 22; Auckland, New Zealand; June 29, 2018.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

(1)研究分担者

研究分担者氏名：野澤俊介

ローマ字氏名：NOZAWA Shunsuke

所属研究機関名：東京大学

部局名：大学院情報学環・学際情報学府

職名：客員研究員

研究者番号（8桁）：50771325

(2)研究分担者

研究分担者氏名：宮崎あゆみ

ローマ字氏名：MIYAZAKI Ayumi

所属研究機関名：お茶の水女子大学

部局名：人間発達教育科学研究所

職名：研究協力員

研究者番号（8桁）：90750216

(3)研究分担者

研究分担者氏名：山下里香

ローマ字氏名：YAMASHITA Rika

所属研究機関名：関東学院大学

部局名：経済学部

職名：専任講師

研究者番号（8桁）：70774206

(4)研究協力者

研究協力者氏名：杉森（秋本）典子

ローマ字氏名：SUGIMORI (AKIMOTO) Noriko

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。